

「逃げる2月」「去る3月」…『時間の早さは年齢の逆数に比例する』という教科書にはない公式があるそうですが、正にその通りだとつくづく感じます。この歳になると、一日一日が過ぎ去っていくというよりも、ひと月ひと月がまとまってドサッと入れ替わっていくような感覚です。

さて、今日は2月16日。ちょうど1年前の2月14日から16日にかけての、あの大雪が思い出されます。2m近く降り積もった大雪は、私たちの生活を大きく脅かしました。加えて、時はソチオリンピックの真っ最中で、日本中がオリンピック一色…。対応の遅さと世間の無関心さに、歯がゆさを通り越し、憤りさえ併せ感じた1年前の今日でした。

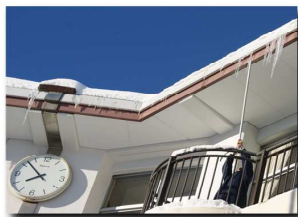
幸い今年は、これまでのところ、比較的穏やかな冬を過ごすことができ、老体にとっては心身共に有り難い限りです。とは言え、物流や交通、さらにはライフラインまでもが断ち切られてしまった昨年の大雪を記憶から消してしまうことなく、常に「万が一」を想定内に置きながら、春を迎える準備をしていきたいと考える今日2月16日です。



氷柱(つらら)に注意!!

次第に寒さがゆるんでくると、学校の屋上や屋根に積もっていた雪が解け始め、写真のような氷柱が垂れ下がります。冬の風物詩としては風情ある光景ですが、その下に子どもたちがいることを考えると、危険極まりない状況です。

学校では毎朝のように氷柱の除去作業を行っていますが、通学路までは手が回りません。学校での指導と併せ、各ご家庭でも、氷柱に注意するようお子さんへのご指導をお願いいたします。



『全国中学校スケート大会』

おめでとう…千葉暁絵さん
2年連続全国入賞



1月31日～2月3日までの4日間、長野市のオリンピック記念アリーナ（通称：エムウェーブ）を会場に、全国から集まった中学生スケーターによる全国大会が開催されました。

本校からは、今シーズン「山梨県小中学生スケート選手権」などで好成績を収めた古屋圭梧くん、長田徳宗くん、千葉暁絵さん、天野沙耶さんの4選手が

参加。全国の舞台で堂々とした滑りを見せてくれました。

とりわけ、女子1000mと1500mに出場した千葉暁絵さんの活躍は素晴らしく、両種目で決勝に進出という活躍とともに、1000m決勝レースでは、ダブルトラックでの山梨県中学校新記録となる1'24"91のタイムで、見事全国7位入賞の栄冠を勝ち取りました。加えてこれは、昨年の大会に続いて2年連続の全国入賞という快挙でもあります。

大会当日のエムウェーブには、選手の保護者やご家族をはじめ、スケート連盟、スポ少などの関係者の方々、そして山中湖村のスケートの伝統を受け継ぐ小学生の子どもたちなど、たくさんの皆さんが駆けつけ選手に声援を送ってくださっていました。子どもたちを取り巻く様々なご支援に対し、心より感謝申し上げます。



女子1000m		予選5組	
1	千葉 暁絵	山中湖	1:23.50
2	上條 夏歩	針盛	1:23.65
3	佐々木 成果	下音更	1:24.01
4	高木 沙彩	土曜町中央	1:25.46
5	星野 帆乃華	葛巻	1:28.09
6	宮下 友希	八戸根城	1:28.33
7	棚瀬 ななみ	前橋第六	1:28.36

平成26年度…残り30日

さあ1年間のまとめ
4月からの準備を!

「光陰矢の如し」の言葉通り、本年度の学校日(登校日数)も30日(3年生は18日)を残すのみとなりました。



昨年4月以降、子どもたちは学校生活の中で様々な経験を積み上げ、1年間をかけて心身共にたくましさを増してきました。しかし、その成長の度合いを確かめ今後につなげていくという作業は、まだまだ中学生にとっては難しいことです。やはり、そこに親が寄り添い、一緒になって思いを巡らせていく必要があります。

反省のないところに目標はあり得ません。勉強、スポーツ、仕事…何についてもそうですが、具体的な反省があってこそ「次はここを改めていこう!」「今までは出来なかったこんなことを出来るようにしよう!」という前向きな目標が生まれるのだと思います。限られたわずかな時間しかありません。この1年間をふり返り、4月から希望にあふれた新しいスタートが切れるよう、各ご家庭、親子で一緒に話し合ったり考えたりする場を作ってみてください。

ふり返りのポイント

- この1年の目標って何だったっけ?
- その目標に向けて、どんなふうに頑張ってきたのかなあ?
- その目標は、どの程度達成できたのかな?
- 達成できたとしたら、どんな点が良かったからなのかな?
- 達成できなかったとしたら、何が足りなかったのかな?

新学年の目標

